

論壇

中国経済に大きく遅れ

インドのデリーの郊外にあるスズキ自動車のマナサール工場を訪問する機会があった。静岡県を代表する企業であるスズキ自動車が現地でどのような生産活動をしているのか、以前から興味があった。

インド経済は大きく成長することが予想されてから久しい。かつては同じような所得水準であった中国には、大きく差をつけられている状況だ。中国経済はこの20年ほどで大きく変わったが、人口の8割以上が住むと言われるインドの農村部は、何十年ほとんど変化

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

がないような状況である。農村部の人口が大量に都市部に移り、都市型の経済成長を続けてきた中国とは大きく異なっている。

そうした状況なので、日本の製品の現地での販売や、日本からの輸出もあまり伸びていない。ただ、そうした中であって、自動車やオートバイは例外的な存在である。

インドのスズキ工場を訪ねて

台数ベースで自動車市場の半分近くのシェアを維持しているスズキ自動車は、群を抜いた存在である。マナサールなど二つの工場でスズキ自動車は大量の自動車を生産しているが、この先アーメナバードの郊外に巨大なグジュラート工場を建設するという。現地のコン

サルタントの解説では、この新工場が地域にもたらす雇用創出の効果は大変な規模になるそうだ。発展のスピードが遅いとは言っても、インドの自動車市場の規模

（台数ベース）は、中国、米国、日本、ドイツなどに次ぐ第5位であるそうだ。人口の大きな国であり、経済成長が続いて国民の所得

農村部に成長の兆しか

インドの農村部はなかなか成長しないと聞いた。ただ、それが最近はずいぶん変化してきているようだ。スマホやインターネットの利用が広がることで、農村の人々が外の世界と繋がり始めたのだ。旧来の農村社会から出て、近隣の町などで仕事を確保する人が増えている。

日本や中国の例を見てもわかるように、農村部から都市部へ人口が移動していくことは、経済発展の大きな原動力となる。日本や中国のように大都市への激しい人口移動は起きないとしても、インドでも農村部から近隣の中規模都市への人口移動が起こりつつあるようだ。これがインドの国民の所得を上げてくれることが期待されるのだ。

インドのこれまでの成長は1億人程度と言われる都市経済の成長だけであった。ITや医療などの産業が中心だ。8億人と言われる農村経済は成長しなかった。それが動き始めているのではないかと、現地のコンサルタントの話であった。こうした動きが広がっていくのか、今後の動きを注目したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。